

連結

売上高

7,881 億円
(前年同期比 Δ 33.9%)



営業損益

Δ **246 億円**
(前年同期比 -)



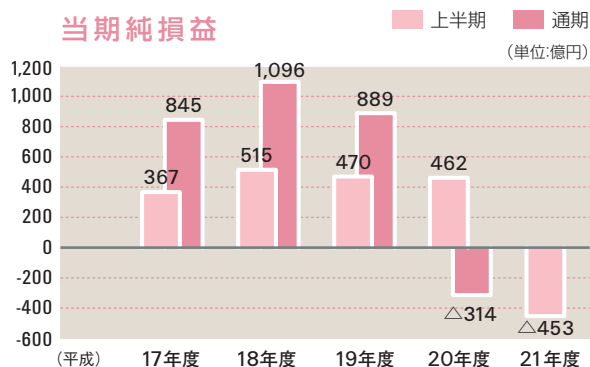
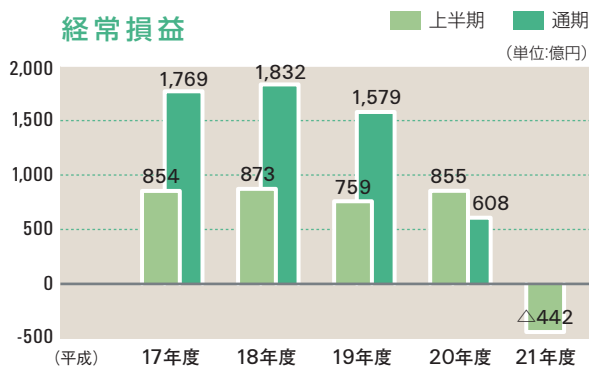
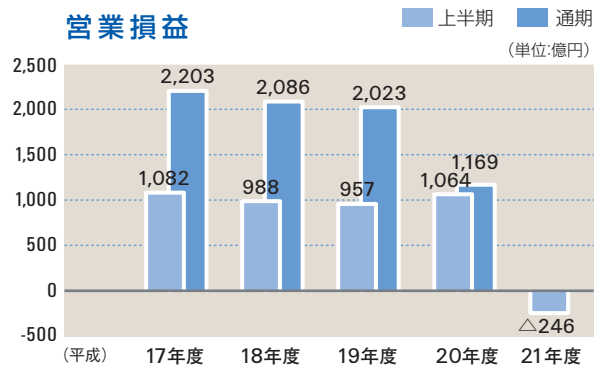
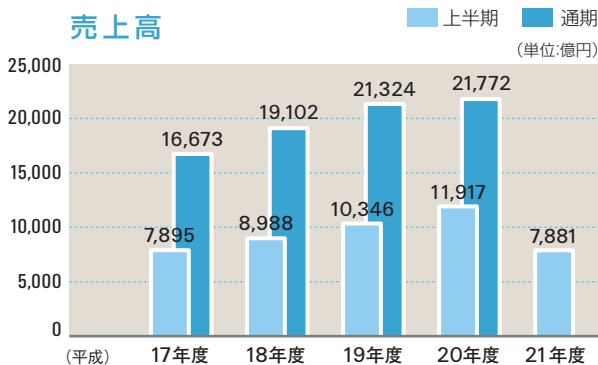
経常損益

Δ **442 億円**
(前年同期比 -)



当期純損益

Δ **453 億円**
(前年同期比 -)



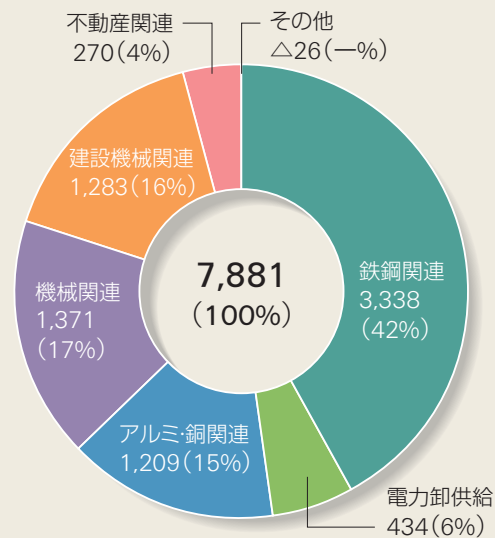
(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

当上半期の概況

当上半期(第2四半期連結累計期間)のわが国経済は、国内外における景気対策の発動や在庫調整の進展、海外経済の改善を背景に、生産に回復の兆候が見えるなど、持ち直しに転じました。また、海外においても同様に、中国で景気は回復に転じたほか、米国や欧州においても持ち直しの兆候が見られましたが、世界経済全体としては、前年同期の水準と比べると、大きく落ち込んでおり、依然として景気の低迷が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業を中心に、7-9月の販売数量は4-6月に比べると回復したものの、当上半期としては、総じて堅調な需要に恵まれた前年同期と比較すると、各事業における販売数量が減少しました。この結果、当上半期の売上高は、前年同期に比べ4,036億円減収の7,881億円となり、営業損益は、昨年末に立ち上げた収益改善委員会を中核とした総コストの改善活動に注力したものの、前年同期に比べ1,311億円減益の246億円の損失となりました。また経常損益は、前年同期に比べ1,297億円減益の442億円、純損益は同じく915億円減益の453億円のそれぞれ損失となりました。

事業別売上高(平成21年度上半期) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高191億円と事業間の内部売上高等の消去額△217億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△26億円となっています。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼関連事業

3,338 億円
(前年同期比 △39.9%)



一部分野にかげりはあるものの、
鋼材需要は回復しつつあります。

- 自動車、電機向け需要は春から夏にかけて回復に転じ、中国を中心とした海外需要も堅調に推移。
- 操業率は改善するも、鋼材出荷数量は前年同期比では減少。
- 鋼材販売単価は原材料価格下落影響から下落。
- 鋳鍛鋼品の売上高は前年同期並み。
- 溶接材料やチタン製品は需要が依然低迷し、前年同期を下回る。

- 営業損益は、固定費削減などに取り組むも、前年同期比1,179億円減の542億円の損失。



加古川製鉄所 熱延工場



電力卸供給事業

434 億円

(前年同期比 +22.9%)



安定操業と収益維持に努めています。

- 電力単価に転嫁される石炭価格が上昇し、売上高は増加。
- 営業利益は減価償却費が減少し、前年同期比22億円増益の99億円。



神鋼神戸発電所



アルミ・銅関連事業

1,209 億円

(前年同期比 △46.8%)



低迷期を脱し、回復傾向にあり、収益改善の効果も出つつあります。

- 飲料用アルミ缶材の販売量は冷夏の影響を受けながらも堅調。
- 自動車向けアルミ圧延材は環境対応車種の販売好調により回復。
- 液晶・半導体製造装置向けはアルミ圧延材、鋳鍛造品ともに低調。
- アルミ圧延品全体の販売量は回復途上にあり、前年同期を下回る。
- 銅圧延品の販売量は大幅回復も、前年同期比では減少。
- 販売価格に転嫁される地金価格が下落したこともあり、売上高は前年同期比減少。
- 営業利益は前年同期比33億円減益の2億円。



アルミ板コイル



機械関連事業

1,371 億円

(前年同期比 △16.6%)



景気低迷の影響を受け、受注は減少傾向にあり、一層のコストダウンに努めてまいります。

- 自動車および石油精製、石油化学業界の設備投資が低迷し、関連製品の受注が減少。
- LNG関連機器や大型圧縮機の一部案件での計画延期発生、還元鉄プラントの新規案件も減少。
- 結果、国内受注高は前年同期比10.3%減少の634億円、海外向けが前年同期比68.6%減の219億円、事業全体の受注高は前年同期比39.3%減の853億円。
- 上半期末の受注残高は2,818億円
- 売上高は、大型案件の売上が集中した前年同期比では減少。
- 営業利益はコスト削減により、前年同期比7億円増益の139億円。



ターボ圧縮機



建設機械関連事業

1,283 億円
(前年同期比 △34.4%)



拡大する中国やインドなどの新興国市場の需要を取り込むべく努めています。

- 油圧ショベルは中国での販売台数が、内陸部を中心に前年同期を大幅に上回る。国内、米国、欧州向けの販売台数は更に減少。結果、全体の販売台数は前年同期比減少。
- クレーンの販売台数は、比較的堅調だった北米向けが在庫調整影響などにより前年同期比減少。国内、中東向けも前年同期を下回る。
- 営業利益は、前年同期比110億円減益の21億円



後方超小旋回ミニショベル
ビートル「SK10SR」



不動産関連事業

270 億円
(前年同期比 +70.5%)



大型物件の引渡しが順調に進みました。

- 不動産販売部門で、大型物件の引渡しが順調に推移したことなどから、売上高は前年同期比で大幅に増加。
- 営業利益は、前年同期比13億円増益の28億円。



ジークレフ新神戸タワー



電子材料・ その他の事業

191 億円
(前年同期比 △31.9%)



液晶パネル向けターゲット材需要に回復が見られますが、試験分析事業が落ち込みました。

- 試験分析事業において、輸送機、エレクトロニクス業界向けなどを中心に需要が低迷し、売上高は減少。
- 営業損益は前年同期に比べ35億円減益の11億円の損失。



ターゲット材